

1. 序

Pentax “K” マウント。King of SLR(一眼レフの王)となるべく、時代に置いつく事が難しくなってきた従来のプラクチカスクリューマウント、或いはより広範に M42 と呼称されるネジマウントを置き換えるべく、カメララインナップの完全な刷新と共に 1975 年に導入されたバヨネットマウント。M42 マウントの陳腐化への対策として開発されたという背景を受け、口径の拡大、開放測光への対応、更に今後の発展性まで見据えて開発され、導入から 45 年以上が経過した今日に至るまである程度の互換性を保ちつつ Pentax ブランドのカメラを支える屋台骨。

この K マウントは、その初期においては規格が広く公開され、各社がそれに追従。正に M42 のユニバーサルマウントの夢よもう一度とばかりに、多くの K マウントボディとレンズが市場に踊り出た。だが、その後カメラ自体の高機能化に従って K マウントも拡張されて行き、その中で Pentax は規格をクローズ化、実質ユニバーサルマウント化を諦めた。それに伴い K マウントは Pentax 固有のマウントへと戻って行く。プログラム露出制御への対応、AF 化、電磁絞りとといった高機能化に伴いマウント仕様に各種のバリエーションを持つが、基本的な互換性は保持している……。

このような文脈で K マウントは語られる事が多いのではないかと思う。そしてなんとなくレンズは装着できるし、なんとなく撮影も出来る。細かい差異はあるけれどどれも同じ、そう思われているのではないか。筆者もそう考えていた。

が、人民公社チェルヴォナ・ジルカの処女作、レンズマウント写真集”Mounts”を製作して以来マウント自体への興味が高まっていた事もあり、”Mounts”の番外編として”K Mounts”を製作しようと思いついた。その為に情報を収集し始めた所、そこには冥府魔道が広がっており、今現在もその中に首まで漬かっているような気分である。この衝撃と沼沼しさを、己一人で独占するのはあまりに切なく、ここに記録として残しておく事とする。旭工学の大願、K マウントのユニバーサルマウント化というバラ色の未来を目指した成れの果て。断片化しきった K マウントの異母兄弟達。とくと御笑覧あれ。

2. 分類規則

Pentax 公式のマウント分類(K, KM, KA, KAf...)は、同名称でありながら外観が変わっている物を含んでおり、そのままキャリアオーバーするには無理がある。これを受けて人民公社チェルヴォナ・ジルカは、「外観上に差異があれば別物カウント」という定義を採用する。また、フランジバックが異なるシグマ SA マウントについては、マウント形状が大変に K マウントに近い物である事、又筆者自信が sd Quattro ユーザーである事から、カウントに含める事とする。

3. マウント概説

3.1 K (オリジナル K):

1975 年の K マウント導入時の状態のマウント。最もプリミティブかつシンプルな状態。M42 ではマウント下部に置かれたバーがレンズのピンをキックして作動させていた自動絞りの駆動は、マウント向かって左側のピンが降りる事によって行なわれるようになった。開放測光対応の為マウントリングに同軸で絞りを検知する為のインナーリングが備わっており、レンズ側に存在する絞り位置によって移動するピンと噛み合っ絞りを伝達、開放測光と絞り優先 AE を達成する。電気接点は無く純粋に機械的な連動のみを持つ。アダプタを使用する事で M42 レンズを実絞りで使用出来るが、アダプタの固定はアダプタ自体にバネを組み込んで行なっているためにマウント側自体に特別な機構は無い。代表的な機種は K2、MX、LX。 マウント素材はメタル。

3.2 KF:

1981 年発売の ME-F に搭載された、世界初の市販化された AF マウント且つ、恐らく最初の拡張 K マウント。オリジナル K の機能は全て残しつつ、マウント向かって右下(4 時方向)に 5 つの電気接点を追加した。対応レンズは僅かに一本(smc Pentax AF Zoom 35-70mm f2.8)、採用ボディも比較的レアリティの高い ME-F のみとあまり実際にお目にかかる機会が無いレアなマウント。オリジナル K とは完全に互換性があるが、後の Pentax 系拡張 K マウントは接点位置が 7 時方向に移動した事からそれらの機能に対しての互換性は無い。 α ショックが起きない世界線では、もしかしたらこの Kf マウントをベースに Pentax のカメラは発展したかもしれない。配置を見るに後の K マウントに追加された端子群とほぼ線対称の位置に端子が備えられており拡張性はまだあるように見える。マウント素材はメタル。

3.3 KA:

Pentax 系 K マウント第二世代。KF とは異なり 6 つの接点をマウントリング 7 時方向に備えている。プログラム露出に対応する為に拡張された K マウント。後の全ての Pentax 系拡張 K マウントは本マウントをベースにしており、特に変更を加える事なく AF 化まで使われた。代表的な機種はスーパーA、プログラム A。絞り検知環有、マウント素材はメタル。

3.4 KA2:

1997 年発売の MZ-M にのみ採用されているマウント。後述の KAf マウントから AF カプラを抜き、マウント素材をプラにした物。Kf と同じく採用一機種の Pentax 系拡張 K マウントとして非常にレアな部類に入る。ペンタプリズムを排した上に MZ 系列でありながらマニュアル専用機という MZ-M に相応しく、PZ 端子用のベースは残っていないながら蓋がされている。K に足し算で作られた KA に対して、KAf2 からの引き算で作られている為接点数は 7 と KAf2 に準ずる。

3.5 KAf(オリジナル KAf):

Pentax 系拡張 K マウント第三世代。SF シリーズより採用の本格的 AF 対応マウント。基本的には KA だが接点数が 7 に増加(+1)し、マウント向かって右下(4 自方向)に AF カプラが備わった。K→KA→KAf と順当に進化を続けていながら後方互換性を 100%保っている所に、M37→M42 で相当に文句を言われたと伝わる旭光学の執念のような物が見て取れる。

3.6 KAf 接点絞り検知環省略型プラスチック :

MZ-60 に採用されているマウント。材質はプラ。オリジナルの KAf の 7 接点に対して、上から 2 番目と 4 番目のピンがオミットされており総接点数が 5 つに減っている。更に絞り検知環が無くなってしまっている為に smc(SMC) K, M, A レンズとの互換性を持っておらず、これらのレンズを接続した場合には測光すら行なわれない為シャッターが切れないという鬼畜仕様。一応接点をテープなどを用いて短絡しないようにすれば撮影はできなくなりますが、この場合実際の絞りを無視して装着されているレンズの開放絞りに設定されている前提で自動露出が設定されるとの事。

3.7 KAf2 (オリジナル KAf2):

Pentax 系拡張 K マウント第四世代。色々な意味で Pentax のカメラ史に偉大すぎる足跡を残す Z 系列の導入に際して採用された。KAf に対して PZ 用の 2 接点がマウントリング内右下(4 時方向)に追加されており、これを以って AF 対応の K マウントは完成を見る。これ以降も色々といレギュラーな K マウントのバリエーションは存在しているが、現実問題今日のデジタル化された Pentax のカメラにおいても(少なくとも物理的な形状としては)ほぼ

そのまま採用されており完成度の高さが伺える。絞り検知環、AF カプラ、7 接点と所謂全部盛り仕様。

3.8 KAf 絞り検知環省略プラスチック:

前述の KAf のマウントリングがプラスチックになり、しかも絞り検知環がオミットされている仕様。コスト削減を第一としたのか軽量化を第一としたのかは解らないが、マウントリング自体までプラスチックになっている。何故 KAf2 プラスチックでないかと言うと、マウント内 4 時方向の PZ 接点が(ベース自体は存在しているが蓋をされて)殺されている為。7 時方向に 7 接点、4 時方向に AF カプラ、絞り検知環付きと他の仕様はオリジナルの KAf に準じる。ボディ側までプラマウントなのは少し寂しい。PentaxMZ-30/50 が採用。尚 MZ-30 と 50 で A ポジションの無いレンズをマウントした際の挙動が違うとの情報があり、MZ-50 の場合 smc(SMC) K/M レンズを装着した場合「現在の絞り値を無視して開放 F 値に設定されている前提で露出設定を行う」=開放でない場合露出アンダーにすっ飛ばすが写真を撮る事が出来るが、MZ-30 の場合は MZ-60 同様そもそも(端子を短絡しないよう保護しない場合)シャッターが切れないとの事。

3.9 KAf2 プラスチック:

前述の KAf プラスチックの PZ 接点がちゃんと生きている状態のマウント。1996 年発売の MZ-10 が採用。仮にもミドルハイエンドの MZ 二桁機はメタルの純然たる KAf2 マウント、ローエンドの MZ 二桁機は PZ 接点も殺して徹底的なコストダウンを行なった KAf プラスチックマウントと二極化する中で、何となく間の子のようなポジションに立っている不思議なマウントである。Wikipedia の記述では MZ-10 発売開始時に PZ 標準装備の Z 系列が併売されていた為にローエンドでありながら MZ-10 に KAf2 が採用された、となっているが、後の MZ 二桁機がゴッソリ PZ 端子を殺している所を見るに真相は果たして。

3.10 KAf 絞り検知環省略型:

Pentax デジタル機第一世代の istD 系列に採用されたマウント。基本的には KAf そのままなのだが、何故か長らく装備されてきた絞り検知環がオミットされた。この為絞りリングに A ポジションが無い=ボディ側から絞りをコントロールできない smc(SMC)K 及び M マウントレンズを装着した際には絞り込み測光しか出来なくなり、著しく後方互換性が落ちた。

3.11 KAf2 絞り検知環省略型:

Pentax デジタル機第二世代の K10D 以降 2016 年発売の K-1 まで採用され続けているマウント。拡張 K マウントの全部乗せである KAf2 をベースにしており、7 接点、AF カプラ、PZ 端子と満漢全席。だが、画竜点睛を欠くが如く絞り検知環が省略されている。この為 istD

系列と同じく smc(SMC)K 及び M マウントレンズを装着した際には絞り込み測光しか出来ず、特に待望の K マウントフルフレーム機 K-1 発売時に過去の遺産をフルに活用できると喜び勇んだペンタックスのユーザー達が失望の涙で枕を濡らしたとか。マウント形状的には KAf2 -絞り検知環なのだが、実際の所内部的には変更が加えられているようで、電磁絞り KAf4 レンズの駆動が出来るボディがある。

3.12 シグマ SA (IB/OB コンビネーション)

交換レンズメーカーのシグマが 92 年に発売した SA-300 以来採用していたマウント。SA-300 の前機種 SA-1 が K マウントであった為か、バヨネット爪の形状自体は K マウントに酷似した物になっている。その著しい機械的類似性はシグマのレンズリアキャップが K と SA マウントで共用である事からも伺える。ただし、マウント内 6 時方向に端子が 9 つ設置されており、絞りの駆動等に機械的連動を残している K マウントと異なり、完全電子マウントとなっている。なんでもこの端子でやり取りされている信号はキヤノンの EF マウントと互換性があるとかないとか。興味深い事にレンズマウントとしては非常に珍しいコンビネーションマウントの形態を撮っており、ボディ側のマウントリングが外側にもバヨネット爪を持っている。このような形態のレンズマウントは旧コンタックスマウントやニコン S マウントの外/内爪コンビネーションバヨネットやキヤノン 7/7S の LTM と F0.95 用バヨネットのコンビネーション等極僅かしかない。とはいえ、どうもこの SA-OB、遂に純正マウントが一本も発売されなかったとの事。

3.13 シグマ SA (IB のみ)

シグマがデジタル一眼の SD14 以来 2016 年の sdQuattro に至るまで採用し続けているマウント。基本的には前述の IB/OB コンビネーション版の SA マウントと同じだが、接点数が 7 に減少し OB が省略された。

3.14 RK:

K マウント陣営であったリコーが 1984 年に発売したプログラム露出対応機 XR-P の発売にあたって採用した拡張 K マウント。オリジナルの(オープン規格であった)K マウントに追加してマウントリング上右下(4 時方向)に 1 接点を追加している。偶然ではあるが、この一接点の位置が KAf 以降の Pentax 純正 AF 拡張 K マウントの AF カプラと近い為、うっかり AF カメラに XR-P 以降用のリケノンレンズを嵌め込むと噛み込んでしまい外れなくなってしまう。K マウントのリケノンレンズ(特に 50mm)は高い評価を得ているが、この点に注意。

3.15 チノン AF-K:

チノンの CP-9AF のみに採用されているマウント。レンズ内モーターによる AF を採用し

た為、マウント内上部(12時方向)に8接点を追加したのみでAFマウントでありながらカプ
ラは無い。絞り検知環も存在しておりオリジナルのKマウントとの互換性は100%保持し
ている。マウント内に端子を追加する事でマウントリングそれ自体には一切の変更を加え
ておらず、他社のKマウントレンズを装着してもRKマウントのような噛み込みが発生す
る事はない。ある意味Kマウントの互換性をフルに維持しつつAF化/プログラム対応可に
おいて最適な解法を見つけたマウントと言えるかもしれない。

3.16 Zenit-KM マウント

ロシア製の一眼レフ Zenit-KM が採用している K マウント。なんとマウント外周部がプラ
スチックのリングになっており、そこに金属製のリングを同軸で組み合わせてレンズ側バ
ヨネット刃を受け止めている。絞り検知環を備えており、機能面ではオリジナルの K マウ
ントと互換性を持っている。

3.17 Zenit Auto マウント

ロシア製の一眼レフ Zenit Auto が採用している K マウント。マウントリング8時方向のバ
ヨネット刃に切り欠きというかロックピンのような物がついており、カメラ付属の M42 ア
ダプタを組み合わせた際にロック機構としての役割を果たすとの事。絞り検知環を装備し
ており、機能面ではオリジナルの K マウントと互換性がある。

3.18 Zenit 212K マウント

ロシア製の一眼レフ Zenit 212K が採用している K マウント。前述の Zenit Auto マウント
から絞り検知環をオミットした物。正直どういうニーズがあって作られたマウントなのか
良くわからない。絞り検知環が無い以外は Zenit Auto マウントと互換なので、8時方向の
バヨネット刃の切り欠きもちゃんとある。

3.19 Almaz K マウント

ロシア製の一眼レフ Almaz シリーズが採用している K マウント。オリジナル K マウント
から絞り検知環がオミットされている。Almaz シリーズは 101 から 104 まで全て K マウ
ントを装備しているらしいがモデル間のマウント差異は不明。少なくとも Almaz103 はこの
Almaz K マウントを装備している。